

景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

景況DI値が3ヵ月ぶりに改善

【概況(全体)】

3月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが13.8%(前回調査3.8%)、「悪化」が38.8%(同43.8%)で、業界全体のDI値は-25.0となり、前月調査と比較し15.0ポイント上回り、3ヵ月ぶりに改善した。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は非製造業では好調であったが、製造業は全国及び東北ブロックを下回った。

【業界別の状況】

業界別では、一部のサービス業や建設業、卸売業、小売業で回復傾向が見られたことからDI値が改善した。一方、繊維、鉄鋼・金属や印刷では需要の勢いが弱く低調に推移した。なお、全体の景況感は、個人消費の低迷等により景気回復を感じられない状況が続いているものの年度末需要が売上高を押し上げている。他方では、人手不足等、経営コスト上昇と供給力の減退も逼迫していることから中小企業の先行きは依然として注視していく必要がある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-25.0	-20.5	-28.9
製 造 業	-28.1	-19.1	-27.1
非製造業	-22.9	-21.6	-30.0

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △10未満
 雷雨 △30以下

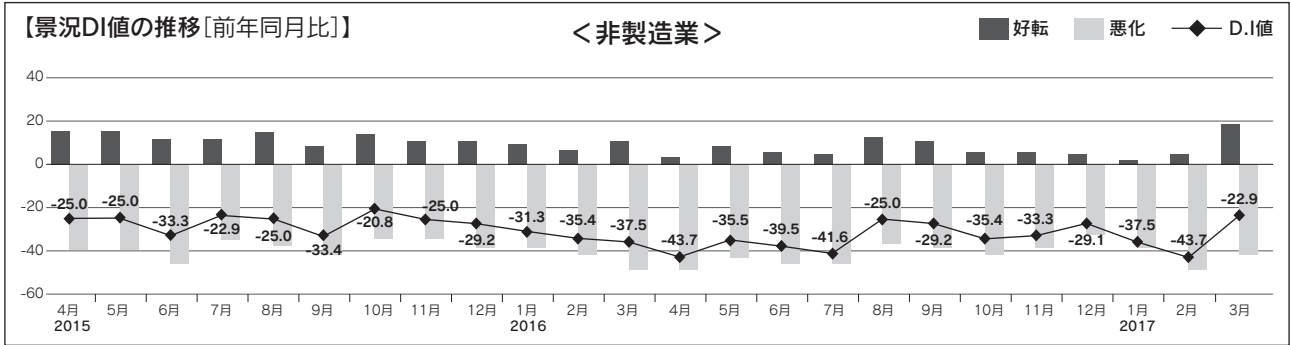
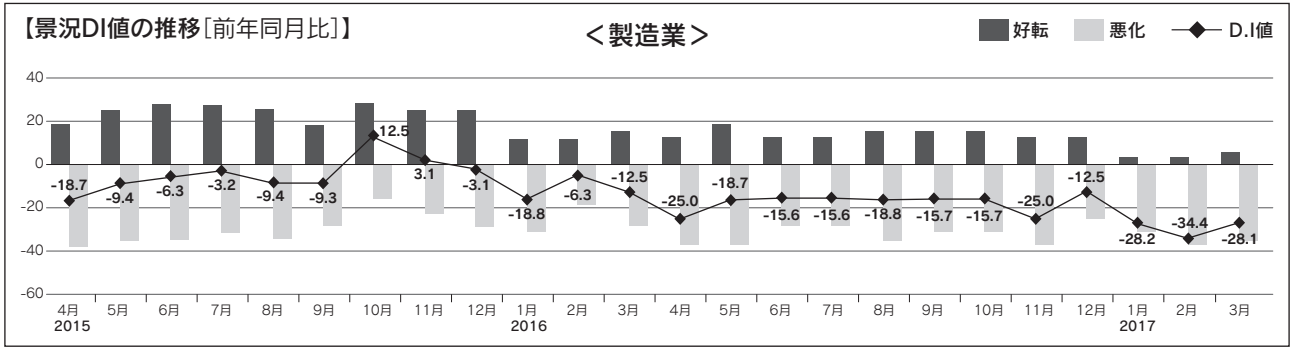
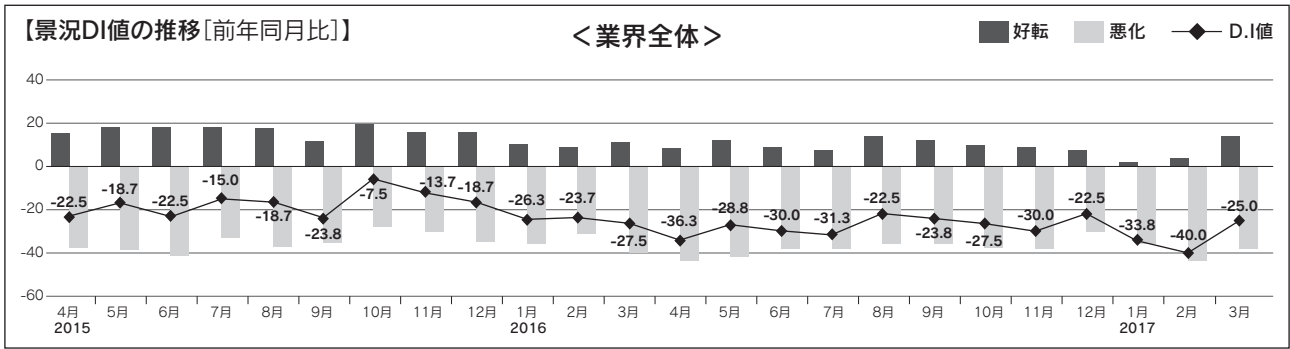
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (清 酒)	2月の清酒出荷量は1,619,822ℓで、前年同月比101.3%と前年を上回った。また、タイプ別では吟醸酒が前年同月比100.4%、純米酒が同109.8%で推移した。
織 維 工 業 (織 維)	婦人服は、3月・4月が繁忙期であるため、別注・別寸の受注が多く、数の少ない商品の切り替えが売上低下の原因となっている。人員も若干減少し、目標数量達成に四苦八苦している。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	製品の受注量は、角柱・間柱を主体に羽柄材も関東圏を中心に昨年同期と同量を確保しているが、販売価格は据え置きとなっている。また、原木価格が値上がりしているため、収益的には厳しい状況であり、景気回復の実感はない。(中央地区)
木材・木製品 (素材生産)	秋田プライウッド第二工場が火災後、3月から稼働したが、人的要因等から稼働率が上がらず、素材の生産量及び消費については先月と同様に横ばいで推移している。また、2月に発生した新秋木工業(株)のパーティクルボード工場の火災による影響もあり、原木端材(チップ材)の需給は小幅であるが過剰気味となっている。
外 材	2月に続き、3月の外材の入港がなかった。原木の確保については、国産針葉樹への材料転換が進み、その供給も順調に推移してきており、今後とも外材入港量の大幅な増加は見込めない。(2月末での外材の在庫量は、前年同月比で54%に減少)
印 刷	年度末の需要が若干動いているものの、依然として低価格の発注・受注は改善されておらず、業況の回復を実感するまでには至っていない。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	3月の出荷数量は、前年同月比101.7%で推移した。また、28年度累計では92.6%となった。平成29年度も大型物件は見当たらず、各地区とも予測のつかない状況が続くと思われる。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	見積依頼が徐々に減少の傾向にあり、受注量も少なく工場稼働率も大幅にダウンしている。ゴールデンウィーク明け頃にならないと本格的な動きがみられないのではと、先行き不安定な状況にある。
一 般 機 器 (金属加工)	同地域内同業者の業況は、総じて活発に推移しており、設備投資(機械装置購入、工場の増改築等)を実施する組合員も散見される。利益率、短納期など取引条件は従前同様に厳しい状況にある。
その他の製造業 (漆 器)	3月は、異動のシーズンであり、退職の記念品や贈答品等で結構注文があった。本物志向の漆器愛好者に対しての販売網を広げていきたい。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (米麦卸)	米の販売数量は2,400 tと順調に推移し、集荷対比進捗率55.2%までになった。市中の米価もここに来て少し落ち着いた感がある。「あきたこまち」が不足しているのは間違いない模様。
小売業 (みやげ品)	団体客のインバウンド、国内旅行の出入があり、入込客数等も昨年を上回り、110%までに増加した。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり133円30銭で前月比2.1円の値下がり、軽油は1ℓあたり113円50銭で前月比1.4円の値上がりとなった。一方、配達灯油は18ℓで1,345円で前月比85円の値下がりとなった。原油コストは値下りしたが、販売価格への転嫁が進み、小売価格は値上りとなった。灯油については需要期がピークを過ぎ、例年どおり値下げとなった。
商店街	前年同月と同じく、地域住民等のニーズに合致する魅力ある商品・サービス不足により来客数が減少傾向にあるのに加え、長引く消費不振により売上が低迷している。(秋田市) 週初めの平日は、金融機関等の利用で来街者もあり店頭売りも多少あるが、週末の土日は人影が見られない。自店舗の魅力向上で集客を図り、商店街へ拡げる努力を続ける必要を強く感じている。(大館市)
サービス業 (旅行)	3月の売上は、前年同月比で国内旅行は122%、海外旅行は101%で推移し、国内・海外とも好調であった。
建設業 (管工事)	1月～3月の組合取扱資材売上高は昨対比で10%増となっている。今後の動向を期待したい。(秋田市)
建設業 (電気工事)	徐々に資材の販売量、電力引き込みや臨時工事の申し込みが増加し、受注量は増えつつあるが、まだ低迷状態は続いている。(大仙市)
運輸業 (トラック)	3月は引越シーズンであり専門業者は一年で最も忙しい月となったが、長距離部門は取引先の決算期の関係もあり、動きが鈍く対照的であった。荷動きは、組合取扱数量(引越・肥料・機械部品等)が前月より少ないもののみであった。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	年度末を迎え、例年どおりであれば、公共工事等の仕上げの関係で骨材の荷動きが活発であるが、今年は雪解けが早い割には落ち込み幅が大きい。(県南地区)